

全 刀 商

全国刀剣商業協同組合 年報

第 24 号



全刀商 第24号

平成27年 6月30日発行

発行所 全国刀剣商業協同組合

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目18番10号 新宿スカイプラザ1302

Tel 03(3205)0601 Fax 03(3205)0089

発行人 理事長 深海 信彦

編集 『全刀商』編集委員会

赤萩 稔 飯田慶雄 伊波賢一 大西芳生 大平将広 嶋田伸夫 清水儀孝 生野 正 新堀賀将 瀬下 明 瀬下昌彦 土子民夫 網取謙一
土肥富康 服部晁治 深海信彦 松本義行 冥賀吉也 持田具宏



表紙解説	1
■『全刀商』第24号に寄せて	2
組合顧問 町村信孝先生を悼む	深海信彦 2
全刀商の今後	猿田慎男 3
所有者変更届に伴う問題点	冥賀吉也 3
さらなる発展的改革を	清水儀孝 4
和して同ぜず	伊波賢一 5
「新聞購読」が趣味の時代へ	服部暁治 5
■特集／全刀商と私の過去・現在・未来	6
死んだ、飛んだ	網取譲一 6
若い世代に期待を込めて	瀬下 明 6
刀剣とともに35年	佐藤 均 7
「大刀剣市」の役割	吉井唯夫 8
これからの刀剣界	土肥富康 8
■業界関連情報詳説	10
銃砲刀剣類登録審査会で何が変わったか 東京都	大平将広 10
ニュースを読む 古美術商殺人事件	嶋田伸夫 12
本阿彌光洲氏が人間国宝に	持田具宏 13
第27回「大刀剣市」を顧みる	清水儀孝 15
さらに充実した「大刀剣市」のために	嶋田伸夫 17
「刀剣博物館」両国会堂跡地へ新築移転	冥賀吉也 18
待たれる新刀剣博物館のオープン	嶋田伸夫 19
■第28回通常総会	21
議事	清水儀孝 21
平成26年度事業報告	22
平成27年度事業計画	23
■平成27年度役員・委員会構成	25
■平成26年度組合活動の記録	26



鶴退治図揃金具（鐺・縁頭） 銘 長陽菰住井上清高
 赤銅魚子地 高彫色絵
 鐺 縦：71.2mm 横：72.8mm 切羽台厚さ：4.8mm
 縁頭 縁：39.5mm 頭：35mm

漆黒の闇の中、ヒョウヒョウという不気味な声が響き渡る。闇より濃い黒雲が立ち込め、御所は得体の知れない重たい空気に包まれる。夜ごとの怪異により近衛天皇は憔悴し、ついには病に伏せてしまう。薬も祈禱も効果はなく、側近たちは弓の名手源頼政に怪物退治を命じたのであった。

頼政は腹心の部下井の早太1人を伴い、御所紫宸殿を警護する。丑の刻、辺りはいつものように黒雲に包まれる。見上げれば雲の中に怪しい物影。決死の覚悟で頼政は弓を引き絞る、ヒョウと射た。手応えを感じ、矢はハタと当たる。悲鳴とともに落下した変化をすかさず井の早太が取り押さえ、とどめを刺した。

後に従三位に叙せられ、源三位と称された頼政の武勇伝「鶴退治」である。この怪物「鶴」は猿の顔、狸の胴体、虎の手足を持ち、尾は蛇（狐という説もある）という実に奇怪な姿をしていたという。現代人からすると信じ難い話ではあるが、煌煌と闇夜を照らす明かりなどなかった時代、気味の悪い鳴き声だけで底知れぬ恐怖を感じるには十分だったであろう。また、黒雲に包まれ姿を現さない変化は、権力闘争を繰り広げる貴族社会に暗躍する何者かを表していたのかもしれない。

鐺には、雷光を放つ黒雲に向かって矢を射る頼政、頭には、背に矢を受けて落下し、奇怪な姿を現した鶴（側面には獣の顔を持つ鶴の尾も彫り描かれている）、縁には、獲り逃してなるものかと待ち構える井の早太がいる。

やや横に広がった丸形という珍しい形状の赤銅地

には、一粒一粒がくっきりとした長州鐺工独特の魚子が撒かれ、背景の建物は細部まで精緻で、これもまた長州鐺工の十八番である。主人公の頼政は目が大きく、頬が高く、顔が細いエキゾチックな風貌で、作者の人物描写の特徴をよく示している。色金を多用した色彩豊かな作で、松明の炎（鐺裏面）、蕨の葉、鶴の顔の素銅は実に鮮やかである。

制作者は宝暦から安永にかけて活躍した井上清高。圧倒的に鉄地の鐺が多い長州鐺工の作において、縁頭と揃いの赤銅地高彫色絵の入念作である。

深い錆色と独特の艶を持つ精良な鉄地に精巧な彫技が美点の長州鐺は、藩を挙げての重要な輸出品。その多くは山水図や菊花図などの植物の図柄で、拵との釣り合いが良いことから人気が高く、日本全国で愛好された。江戸時代、最も多くの鐺工を擁し、質の高い鐺を量産したのは長州藩であった。

余談ではあるが、清高が活躍した宝暦年間に、長州藩は財政再建のため大規模な検地を行った。かつて西の雄藩であった毛利家は、関ヶ原以降領地を長門・周防の2国36万石と大幅に減らされ、財政難に陥っていたのだ。宝暦検地で得た4万石余りの増収で長州藩は撫育局を設立し、殖産興業を行った。そしてこの撫育局が、幕末維新时期における長州藩の武器購入などの莫大な出費を弁済していったのだ。

黒船来航のおよそ90年前、尊王攘夷思想の萌芽も見られない太平の世に制作された鶴退治図揃金具。依頼主は誰だったのか。深読みの必要は全くない。ただ、いつの世にも「鶴」はいる。不穏な時も平時にも。（立野朱美）

組合顧問 町村信孝先生を悼む

理事長
深海 信彦

町村信孝先生は去る6月1日、病に倒れ70歳を一期として逝去されました。28年の長きにわたり組合の顧問として大所高所より適宜ご助言ご指導を頂き、時にはわれわれの要請に応じて直接官庁や要路への働きかけの労を執られるなど、組合にとっては大きな支えであり、心強い後ろ盾でもありました。衆議院議長に就任され、この後は政界の重鎮として、閣僚や党の役員時代にはなせなかった影響力を発揮し得るお立場となり、その発言と行動力をもって今後のご活躍も期待されていただけに、そのご逝去は驚きであり、惜しんでも惜しみ切れないほどの悲しみではありますが、今は静かにご遺徳を偲び、哀悼の意を捧げるばかりであります。

不肖私が町村先生と初めてお会いしたのは、組合顧問として正式に出席して下さった昭和62年5月の組合設立総会の記念式典前年の秋ごろでした。当時、財団法人産業研究所の常任参与の要職にあり、現在は一般社団法人次世代芸術文化都市研究機構の理事長や公益財団法人日本刀文化振興協会の特別顧問に就かれている河端照孝氏の紹介で、ホテルニューオータニでのことでした。

政府認可の組合ともなると、有力政治家を何人か顧問に頂くことは常道で、分けても町村議員は通産省出身で中小企業行政に精通し、ご尊父が元警視総監であることから警察にも人脈が広く、当選2期目ではあるが前途有望な政治家であり、組合の顧問には最適者であるとの河端氏のご推挙に従い、顧問就任をお願いに上がった荒勢英一氏のお供を致しました。翌年の設立記念式典で私が司会を務めた折は、檀上横のカーテンの陰で町村先生に目で合図をしてご登壇いただき、以来何かとお見知りの榮に浴したのであります。

先生は翌63年、設立1周年記念祝賀会にもご出席くださり、刀剣の経済的価値のみでなく、文化財としての高い精神的な価値を再認識すべきだと唱えられ、文化財の保存と普及の一端を組合に求められたのであります。

先生はその後平成9年、橋本内閣で文部大臣に就任されました。河端氏のお導きで、理事長の荒勢氏と後に理事長になられた飯田一雄氏、当時専務理事の私の4名で広い大臣室にお祝いに参上しました折には、「さあ、これでやっとあなた方のお役に立てる地位に就きました。何でも言ってください」と笑顔で話されたことを昨日のこのように記憶しております。

町村先生の後援会組織である「信友会」には組合で会員登録している以外に、私個人も会員であったこともあり、年に数回の朝食会や励ます会の通知がありました。いささかではありますが恩顧に報いるべく、時には組合の役職にある者と同道して都合のつく限り参加させていただきました。おかげで、初当選以来公設秘書を務めておられた山崎修氏とも顔なじみとなり、ほとんどの陳情はこの方を通じてのこととなりました。

河端氏の見聞の明に違わず、先生はその後、初代文部科学大臣、外務大臣、官房長官を歴任され、また町村派会長としても大派閥を率い、自民党総裁選に出馬されるなど、八面六臂のご活躍でしたが、それらの過労も一因でありましょうか脳梗塞を患われ、ついに帰らぬ人となりました。

創立時より顧問をお願いしておりました元環境庁長官鯨岡兵輔先生、やはり河端氏のご紹介で柴田光男初代理事長のお供で議員会館に参上して顧問をお願いした元文部大臣の田中龍夫先生、いずれも鬼籍に入られました。唯一の顧問であった町村先生の突然の訃報は組合にとっては限りない痛手でもありますが、今となっては28年間の長きにわたるご指導に感謝し、ご冥福をお祈りするばかりであります。

先生のご恩に報いるためにも、ご指導の通り刀剣の文化財としての価値認識を一段と向上させ、精神的な価値をも内包する素晴らしい美術品としての刀剣の保存と普及のため一層の努力を致すことをお誓いして、追悼の言葉とさせていただきます。

全刀商の今後

副理事長
猿田 慎男

第28回の総会を終え、組織としての充実感が漂う全刀商のこれまでを振り返ると、歴史ある全国組織の全国刀剣業界防犯協力連合会（刀防連）との十数年前の合併が一大事業であり、一大転機であったと思われま。

今や「大刀剣市」は刀剣業界の大イベントとして定着し、年に一度のお祭りであり、国内外のお客さまにとっても楽しみな事業となっています。また、月一度の交換会も順調に催されており、刀剣・武具類の流通に大きな役割を果たしております。さらに組合紙『刀剣界』の発行は充実した紙面に一般の愛好家の期待も大きく、今後とも希望の持てる事業でもあります。

しかしながら、心配なことは組合員の数がわずかに176名の少数数であることです。このような少数規模で、前に述べたような事業をこなしていることです。事業規模は年間総組合費をはるかに超える予

所有者変更届に伴う問題点

副理事長
冥賀 吉也

3年ほど前から文化庁の指導により銃砲刀剣類登録証（以下「登録証」）の所有者変更届の強化が行われるようになった。

それまでは、所有者変更届の義務について理解しながらも「われわれ業者は仕入れてもすぐに売却するから、刀剣を買い求められた愛刀家の方々に変更届を出してもらえればいい」などと勝手に解釈し、仕入れた時点で直ちに変更届を行っていた業者はほとんどいないように思えた。

しかし、あらためて登録証の裏面を見ると、注意事項が数多く書かれている中に、次のような大事なことが書いてある。その一文を要約すると、「銃砲又は刀剣類を譲り受け、若しくは相続により取得し……場合には20日以内にその旨を登録の事務を行った都道府県の教育委員会に届けなければならない」

そして「違反した場合は法により懲役または罰金の刑に処せられる」とも書かれている。

全刀商からも組合員の皆さまにこのことを繰り返

算を計上しており、土台の弱さがうかがえます。

景気低迷の時代に組合員の増加はなかなか難しく思われますが、とりあえず200名を超えること、そして300名、500名と目標を定め、実行に移すことが優先課題だと思います。また、全刀商発足以前からの既存組織との組み入れが最も重要であり、効果的だと思います。

具体的に申しますと、大阪美術刀剣業組合・京都府美術刀剣商組合との関係を強化していく努力が必要ではないでしょうか。当初申し上げましたが、刀防連と全刀商の合併に費やした力を、関西にある既存の団体との交渉に再び注ぎたく思います。

一般社会から見ればとても希少な世界であり、組織ではありますが、さらなる躍進を望むものであります。新しい任期2年間に於いて組織の拡大・充実を成し遂げたいと思いますので、皆さま方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

しお伝えした甲斐あって、近ごろ、変更届の件数が全国的に非常に増えていると聞いている。

文化財保護委員会から登録証が最初に発行されたのが昭和26年であり、この63年間に約250万点に及ぶ膨大な数の登録証が発行されている。それも今では、原票がすべてコンピューターに入力され、完璧な状態で管理されている。ここに至った各教育委員会のご尽力には敬意を表したい。

われわれ業者の刀剣類の仕入れ先はさまざまである。個人からの場合もあれば、刀剣商同士の交換会、あるいは刀剣商以外の業者の入っている交換会など、いろいろなケースがある。

刀剣商を中心とした交換会では登録証に関して昔から厳しい掟があり、万が一にも不備な点が発見されれば、無条件で返品対象となる。従ってトラブルは非常に少ないが、そのほかの仕入れの場合、まれに問題が起きることがある。

実際に所有者変更届を出したとき、さまざまな理

由により原票と異なる場合がある。本来その刀に付いていた登録証にもかかわらず、寸法のわずかな測り違い、銘文の書き漏れ、誤字・脱字、目釘穴の数の違いなどさまざまである。また、無銘の刀の場合、いつの間にか別の登録証と取り違えてしまったケースもあり得る。

所有者変更届を出したとき、通常ならハガキで連絡があって完了となるのであるが、前記のような理由で原票と一致しないと、変更届提出先の教育委員会から確認のため登録審査日に現物を持参するよう指示がある。そこで確認の後、新規あるいは訂正という形で登録証が発行されるシステムである。

長期間にわたって膨大な数の登録証が発行されたことを考えると、原票との不一致が少しはあっても無理のない話なのかもしれない。

さらなる発展的改革を

専務理事
清水 儀孝

初夏の候、組合員の皆さまにおかれてはますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

昭和62年9月24日付で中曽根康弘内閣総理大臣（当時）から正式に全国刀剣商業協同組合として認可され、早くも28年の月日がたとうとしています。

その間、相互扶助の精神に基づき共同事業や経済活動を推進するとともに、社会的地位と経済的地位の向上を目指して活動してまいりました。昨年度の第28回通常総会も、組合員の皆様のご理解とご協力により議案すべて可決承認することができました。

組合員数は176名、賛助会員は82名と、残念ながら昨今の事情などから減少傾向にあり、経済委員会の市場運営事業（交換会）も出来高が減少傾向にあります。また、共同販売促進事業（大刀剣市）は昨年並みの成果を上げることができましたが、今後出店を希望する組合員や、年々増加する国内外からのご来場者への対処など、わが組合においてさまざまな課題が山積しつつあります。

とりわけ二大事業（大刀剣市・交換会）に関しては、組合員各位の知恵と活力を結集し、発展的改革を図っていくことが不可欠です。新執行部は深海理事長を中心として、その先頭に立ちたいと思います。

昨年度のうれしいニュースでは、研師の本阿彌光

過去にも原票との不一致が判明し、組合に相談が寄せられたことがあった。このときは単なる一個人の問題ではなく、刀剣界全体に関わることであったので、真剣に受け止め、微力ながら全刀商として対応させていただいた。

所有者変更届の目的は、現所有者の確実な把握はもちろんであるが、過去に発行された登録証を併せて確認し、訂正を要するものであれば訂正し、正しい登録証を発行することであろう。

美術的に価値のある日本刀を末永く後世に伝えるためにも、文化庁・警察庁・教育委員会・業者・職方・愛刀家等々、刀剣に携わるすべての方々との全面協力が最も必要なことである。そのために、最前線で活躍する刀剣商の元締めである全刀商の役割は重要である。

洲先生が、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。また、公益財団法人日本美術刀剣保存協会が3年後、墨田区両国に発展的移転を決めました。そして最近、メディアなどで「刀剣女子」なる言葉を耳にします。それはインターネットゲーム「刀剣乱舞」に触発されて歴史への興味を持ち、日本刀の実物を見ようと美術館や博物館を巡礼する若い女性たちを指しているようです。日本刀ブーム到来などとも言われていますが、このようなときこそ、日本刀の持つ美術性や精神性などを正確に伝えていかなければならないと思います。

わが全国刀剣商業協同組合は、美術業界では唯一国（警察庁）の認可団体です。このような立場を生かし、刀剣登録証名義変更に伴う問題や、国内外での日本刀輸送に際しての問題を所管の機関と折衝し、解決策を探ってまいります。また、全国美術商連合会や公益財団法人日本美術刀剣保存協会、公益財団法人日本刀文化振興協会などの諸団体とも連携を深め、刀剣界全体の発展に邁進する所存です。

今年度も『刀剣界』新聞において有益な情報を発信してまいります。ご購入と併せ、全国各地からのニュースもお願いします。

組合員各位のますますの商売繁盛とご健勝を祈念して、ご挨拶に代えかえさせていただきます。

和して同ぜず

常務理事
伊波 賢一

強くなった日差しに初夏を感じ、衣替えを済ませるころ、四季のある日本に住む喜びを感じます。

この時期、巷の企業では業績発表のニュースをよく目にします。それぞれの企業理念や存立意義に基づいた活動が、外部環境の影響や内部自浄作用により、好調か苦戦かが如実に現れるシビアなシーズンであり、次年度への希望を語るときです。

当組合も5月に28回目の総会を終え、深海理事長体制の3期目が始まりました。秩序と公平の下に円熟味を増す運営は、組織の充実はもちろん、各自の商業活動の活性化を思う同じ気持ちから、順調に進んでいると思います。数年前からの負の遺産にも、方向が見えた案件も多いでしょう。

組合組織と各人の充実への思いに、反対する人はいないと思います。それぞれが、それぞれに良くあってほしいと思う気持ちは、確実にそれぞれを、

それぞれの可能な活動へと導いていることでしょう。

「和して同ぜず」今さらここで申すまでもなく、2500年前、儒家の始祖孔子と高弟の言葉を後に記録した書物『論語』からの出典で、正確には「子曰く、君子は和して同ぜず」。お互いがそれぞれの方針や文化を理解尊重し、手を握りながらも、自分たちの考えをしっかりと持っていこうという教えです。

と、ここまでは各所で見聞きしますが、この文は次のように続きます。「小人は同じて和ぜず」。

小人は、利益を得んがために同惡相濟い、付和雷同してしばらく一体となるも、義のために親和することなし。時代の流れは目先に心を奪われることなく、最終的には親和する未来志向です（澁澤健『渋沢栄一の「論語と算盤」を今、考える』）。

まだまだ力及びませんが、いにしえの良き教えを心に刻み、前に進みたいと思います。

「新聞購読」が趣味の時代へ

常務理事
服部 暁治

当組合発行の新聞である『刀剣界』は、発刊から5年目に入りました。アマチュア編集委員が年6回隔月発行というハードワークを乗り越えて継続し、第24号発刊に至っています。

組合新聞は機関紙として、また業界情報紙として徐々に発行部数を伸ばし、読者を増やしていますが、天下の大新聞はそうはいかないようです。

最近若い世代を中心に、新聞を購読しない世帯が増えているようです。電車の中でも新聞を読む人をめっきり見なくなりました。というより、たまに新聞を広げている姿に出会うと、珍しそうに見入ってしまいます。

迷惑そうにしている左右の乗客にはばかりことなく、大きく広げ、活字を追い、首を上下左右に振っている姿は、いかにも昭和のオジさんです。

新聞読者が減少していくのは、誰もがスマートフォンやタブレット端末を持つネット時代なので、当然と言えば当然です。いや、もっと以前に、テレビの出現で、新聞に頼らなくてもニュースは目や耳

に入ってきます。手元に新聞が来たときには、大きなニュースは既に承知です。

新聞の最後の砦だった最終面のテレビ番組欄も、ハイビジョンの鮮明な文字にはかなわないし、番組録画予約も簡単にできる電子番組表に取って代わられています。大新聞社傘下の週刊誌も、銀行や医院の待合室の専用誌という感じです。

朝起きて、お茶を飲みながら新聞を広げるという昔ながらのスタイルの見られる家庭も少なくなって、新聞を読むことが趣味の時代になりそうです。

時代の変革に適応できなかったか、予測を見誤ったか、大銀行・大電機メーカー・大スーパーの名前が消えているのに、情報化への荒海の中で、購読者が減少しているにもかかわらず、新聞社だけは淘汰されずにしぶとく生き残っているようです。

新聞の購読料は販売店と配達員に充てられ、広告料が新聞社の収益の大部分だそうです。

あのヤフーやグーグルにしても、収入の大半は広告料だとか。意外と古典的なビジネスの感じだす

死んだ、飛んだ

綱取 譲一

今日は大好きな一人の先輩の話をしよう。

組合の歴史を振り返ると、輝かしかった隣には必ず陰の部分がある。一瞬の輝きを放った後にブラックホール化してしまう天体のごとく、または常に陰で支えながら浮上することなく、去った仲間たち。そして、もちろん誰もがいつまでも元気で事業できるわけではない。

あるとき、とある交換会の事務用品コンテナから出てきた古い集合写真。遠い昔の大会のときのものだろうか。齋藤隆久元理事ならここで「一葉の記憶」という美しい文章が出てくるが、猿田慎男副理事長は違った。

「キッヒッヒッヒ、死んだ、飛んだ、死んだ、飛んだ」とそこに写っている人たちを一人ずつ指さしている。その身の毛もよだつ薄気味悪い笑い声と、明日はわが身かとの思いにそこにいた全員が凍った。

猿田氏の名誉のために書き加える。長い時間、自分は健全・健康に営業しているというケチな優越感がこんなことをさせているわけではない。欧州の一部の霊園には、十字架のほかにバロック調の彫刻があるという。そこには花や天使だけではなく、腐食しゆく屍やそれに巢食う幼虫や小動物がグロク表現されているらしい。死というものを常日ごろから身近に置くことにより、死の恐怖を和らげようという意思の表れだろうか。

病院が大嫌いな持田具宏理事が医療器具を見た

けで、その一つの血圧計にすさまじい数値を叩き込んでしまっていたが、毎日何回も計測するうちに安定した数値になったのと少し似ていないか。生ある者はいつかは死ぬことに間違いはなく、そして恐ろしい。が、猿田慎男副理事長は人とはどこか違う死生観を持った人なのだ。

その猿田氏が懸念を示しているのが、組合員数が減少傾向にあることだ。増加に転じることができないかという思いを、新理事との初顔合わせのときに発言した。その背景には死んだり飛んだりがあると

言いそうだったが、飲み込んだ様子だ。減少への対策は若年層の発掘だが、増加へのヒントは亡き柴田光男初代理事長の「1年に1振だけの刀剣を扱う、そんな商人にもこの組合に入ってほしい」—この言葉にないだろうか。つまり草の根運動的な見直しも、事務局の手間を軽減しながらも検討していいのではないだろうか。「キッヒッヒ、死んだ、飛んだ」とはえらく品格が違う言葉だ。

ところで、猿田副理事長の「飛んだ」はどうだろうか。何度も唱えて倒産の恐怖を麻痺させているのであれば、それは周りは穏やかではなかろう。しかし、安心してほしい。「死ぬことなんて怖くあらへん。人生は第3コーナーを回ってゴールが見えてきたから勝負なんや」という言葉が氏のモットーであり、死生観だからだ。死ぬまで突っ走り続けてくれるに違いない。 (理事)

若い世代に期待を込めて

瀬下 明

父が自宅を兼ねた刀剣店を営んでいました。そんな中、サラリーマンを経て後を継ぐことになりましたが、それまではもっぱら来店されたお客さまを相手に販売する仕事でしたので、人間関係を築けてい

ないお客さまに何をどうして良いのか、当初は戸惑うばかりの日々でした。

やがて交換会にも参加させていただくようになり、少しずつではありますが販路も広がっていきました。

そして、昭和62年に組合に加入し、諸先輩の指導を得たり、さまざま学ばせていただいたりする機会も増えていきました。今でも本当に感謝しています。

長年この仕事に携わってきて思うのは、一見派手に感じられる商売ですが、現実には決してそうではありません。他の業界を深く知るわけではありませんが、当業界にはきわめて厳しいものがあると思います。反面、とてもやりがいの感じられる仕事でもあります。地に足を付け、コツコツと真面目に努力すれば、お客さまのニーズにもおのずと対応でき、信頼もされ、リピーターとなってくださるのだと思います。まだまだ伸びしろのある世界だと思います。

刀剣は、わが国の歴史と文化のシンボルです。先ほども記しましたが、私が若いころそうしていただいたように、今度は私たちの世代が若い方たちに大きな期待を込め、見守り、育て、力になることができると思います。組合活動にも積極的に参加し、少しでもご恩返しをしたいと思います。

業界全体の未来がさらに明るいものとなるよう、若い方たちも含めて組合員全員が一致団結し、組合

を発展させるとともに、一般の刀剣に対する認知度を高めていきたいものです。今「刀剣女子」が評判ですが、そのような関心を趣味の世界へといざなうことができれば幸いです。

一方、今まで長い年月、刀剣を趣味としてこられた方で、一代限りで終わってしまう例があまりに多いことは残念です。そのお子さんやお孫さんには、ぜひとも家宝として受け継いでいってほしいと思います。そのお手伝いをするのも、私たち刀剣商の仕事ではないでしょうか。

心強いことは、海外の方々の刀剣趣味の定着ぶりです。その博識ぶりにも驚かされます。これも組合の「大刀剣市」の大きな業績の一つだと思いますが、大刀剣市はさらに発展させていきたいものです。

これまで、とかく景気に左右されすぎていた業界ですが、これを安定したものとするためにも、一人一人が誠意ある言動を守っていくことは大切です。業界を若い世代に安心してバトンタッチしていくことは、この世界の変わらぬ課題だと思います。

(理事)

刀剣とともに35年

佐藤 均

皆さん、こんにちは。刀剣佐藤代表の佐藤均です。何だか「私の履歴書」的な記述になりそうですが、拙い私のエピソードを投稿させていただきます。

早いもので、刀剣の世界に入って35年が経過しました。その約半分当たる16年間は、「世界の安東さん」として有名な(株)安東貿易で刀剣に関わる業務に専念し、販売・仕入れ、そして刀剣の調査研究など幅広いご指導を受け、今の私が存在する礎を築かせていただいたと感謝しています。

時はたち、平成8年、刀剣佐藤として独立開業に至ったわけですが、恥ずかしながら運営資金などはほとんどなく、個人的に収集していた刀剣9振からのスタートでした。3畳一間の事務所を開き、お客さまの定員は1人限定。SOHOビジネスといえは聞こえはいいのですが、小さな小さな世界で必死で頑張りました。

ある日、東京上野で開催の組合交換会会場にて、現理事長の深海先輩に組合入会の保証人を快諾していただき、それが私にとって一種のターニングポイ

ントであったと感じています。

その後は、地元銀行の旧店舗を購入のご縁があり、改装して平成14年に倉敷刀剣美術館を開館する運びとなりました。その際には多くの方々から激励のお言葉を頂戴すると同時に、深海先輩から「この度は倉敷刀剣美術館の開館、おめでとうございます。ご当地に刀剣美術館を造ることは誠に意義深いことで素晴らしい快挙であります。今後ますます研鑽努力され、大成されんことを祈念致しております」と祝福のお手紙を頂きました。これは今も大切に保管しています。

この度、おかげさまでもちまして開館13年目の節目として、倉敷刀剣美術館は一般社団法人の認可を受けることができ、長年の懸案であった刀剣美術館主宰の鑑定書を発行するに至りました。鑑定書の内容と詳細につきましては、近々鑑定書専用ホームページなどにてご案内させていただきます。

この鑑定書が、大切な仲間である刀剣商の方々の一助になれば幸いと願っております。 (理事)

「大刀剣市」の役割

吉井 唯夫

生まれたときから父の仕事を継ぐのが当たり前、というより、そうせざるを得ないよう、周りから「跡継ぎ」という言葉を言われ続け、育てられてきたような気がします。

大学を出てから、大阪美術倶楽部の社長を兼務されていた米田商店で昔ながらの丁稚奉公を数年した後、家業に就きました。

バブルという世界的な好景気に浮かれまくっていた時代を経て、はじめてからの長い長い景気の落ち込みを肌で感じながら、平成6年に父が亡くなった後、当組合に加入させていただきました。

刀剣界の動きが少しはわかったつもりの中で、まだまだ未熟でしたが、組合の行事に参加すると、諸先輩から古い話を伺ったり、時代に沿ったアドバイスを頂いたり、またおかしな値段の上がり方のセリをして怒られたりと、今になると良い思い出ばかりです。

百貨店での催事との関係で日程が合わず、参加できなかった「大刀剣市」に、平成15年より出店させていただけることになりました。交換会以外では、初めての東京での商売でした。

前々から伺っていた通り、国内のお客さまはもとより、世界中から来られるお客さまの多いこと。日本刀・刀装具・武具などが海外にまでこのように認知され、愛されていることがとてもうれしく、外国のお客さまの知識の豊富さにも驚かされ、また教えていただくこともたびたびでした。

大刀剣市に来れば、数百振の刀剣類も、それに倍する刀装具や武具類も見放題、探し放題、予算が許

す限り買い放題とあって、数寄者さんたちが集まるのは当然といえば至極当然。収集された作品を披露したり、ケータイやタブレットの写真で見せ合い、自慢合戦や情報交換の場としてワイワイガヤガヤ楽しまれている各国の方々を見ると、毎回心強く思います。

触れて、手入れをして、後世に伝える…わが国独特の歴史と文化に培われてきた日本刀の世界が、ここまでお客さまの気持ちをつかみ、楽しませる大刀剣市。昔から「お客さまとともに育つ」と言われる商売の本質・原点だと思ひ知らされました。

最近でこそ東京美術倶楽部の2フロアに70余が出店する盛況ですが、当初は規模も小さく、関係者のご負担も過大だったと伺っています。その方々の犠牲と熱意のおかげで現在があることを、私たちは忘れてはならないと思います。

趣味というものはなかなか代々続くことが難しく、1人の個人にとどまることが多いのが現実です。昔の大コレクターでも売り立てがあるように、時を経て作品は分散し、また別の愛好家に渡ることが繰り返されます。そこで求められるのは、信用と信頼です。本物に出合うことができる機会と、安心して相談できる場所を提供する上で、組合と大刀剣市の役割はますます大きくなることでしょう。

全国刀剣商業協同組合が、諸先輩の経験と知恵に、若手刀剣商の斬新なアイデアとパワーを交えつつ、次世代に継続発展させていくことを期待しています。 (理事)

これからの刀剣界

土肥 富康

大学を卒業してこの業界に入り、大阪刀剣会吉井主人の元で5年4カ月修業し、それから3年がたとうとしています。つまり、この業界に入ってから8年と少ししか経験していないわけですが、私が入ったときから組合はあり、むしろあるのが当然のように、組合の交換会や「大刀剣市」に参加させていた

だいてきました。

今年で組合は設立29周年とのこと。設立のときには、ものすごいエネルギーが必要だったと思います。また、その後も諸先輩の努力で成長し、ここまで大きい組織になったわけで、その出来上がった船に乗っている私たちは感謝の気持ちを忘れてはいけ

ないと感じております。

組合は交換会や大刀剣市など、商売の場を提供してくれるのはもちろんのこと、組合があるということで商売をする上での信用の基準の一つになり、刀剣商という職業の認知にも大きな力を与えてくれています。また、個人ではできないことも組合を通して可能になったり、公的機関や他の業界との対話も円滑になったりしています。過去には組合員の要望がいくつも改善されてきました。

今、景気の面では株価が2万円を超え、上向きの傾向にあり、「刀剣乱舞」のヒットにより女性層の刀剣ファンが増加、「刀剣女子」という言葉までニュースで取り上げられたり、テレビで特集が組まれたりするなど、刀剣ブームの再来を期待してしまふ一方、障害もあり逆風も吹いています。

名義変更の際の手続きに伴う登録証の問題や、輸出に利用してきた物流サービス機関FedExなどが刀剣類の取り扱いを中止するなどの国際流通の問題、

現代刀の贋物が出回っている問題……。さらに、これから導入されるマイナンバー制度は、仮に取引したお客さますべてのマイナンバーの記載が義務づけられることにでもなると大変です。

これらの問題に組合員が一致団結して取り組み、障害を取り除き、皆がスムーズに商売ができるようになったら、組合の存在意義は一段と高まることと思います。

これからは業界の諸団体とはもちろんのこと、他の美術商の団体との連携も必要になってくるでしょう。全美連（全国美術商連合会）の理事の深海さん、東京美術倶楽部の理事の伊波さん、大阪美術倶楽部の理事の吉井さんなど、他の美術業界との太いパイプがあることは心強い限りです。全国美術商連合会の加盟も大切になってくるのではないのでしょうか。

私も微力ながら組合に協力し、刀剣界全体が良い方向に進むお手伝いができたらうれしいです。

(株式会社和敬堂)

5ページより続く

が、閲覧者の動作を解析してその人向きの広告を画面に掲載するので広告効果が高いそうです。当然、広告料も比例しそうです。

なるほど、新聞社は今をときめく高収益IT企業と同じような稼ぎ方なのか。でも、世間では同列には語られていません。片やIT企業は、情報・ニュースの収集から配布までを光ファイバーや電波

を駆使する。一方、新聞社は人海戦術で集め、大掛かりな装置で印刷し、排気ガスをまき散らして運び、また人海戦術で配布だ。勝ち目はないのは明らか。でも、消えずにがんばってる。孝行息子がいるのか、テレビ局とかいう…。

わが家ではこれが夜の決まり文句。「オーイ、誰か夕刊取ってきたかぁー」。昭和だなぁー。

銃砲刀剣類登録審査会で何が変わったか 東京都



銃砲刀剣類登録審査会の様子

■平成26年4月から、東京都の銃砲刀剣類登録審査会の手続きに関して変更があった（詳しくは『刀剣界』第16号参照）。今号では審査会に行かれる方のために、実際に審査会に赴いて、どう変わったかをレポートする。

まずはおさらいをすると、大きな変更点は2つ。

①完全予約制の導入（時間指定）

②日程および審査会場

である。従来の審査会との比較を踏まえて説明していきたい。

①の予約制についてだが、来庁者が長い時間待つことなしに審査を受けられるようにするという趣旨の下に変更された。

従来であれば、基本的に予約の必要がなく、受付時間は午前9時から午後3時までだった。

受付が終われば、受付番号札をもらい、自分の番号が呼ばれるまで審査会場内で待機。実際のところは、朝8時には既に10組ほど並んでいることもあり、お昼時に受付しようものなら、待ち時間だけでも2時間以上かかることがしばしばあった。不慣れな方にとっては、刀をどこかに預けることもできず、長時間我慢しなければならぬという状況が続いた。

昨年下半期ごろからは東京都側で改善をしていただいたため、ゴールデンタイムを避け、午後2時半以後に行けば、待ち時間もなくなり審査を受けられるようになった。しかし筆者のように、毎

月審査会に行く者でなければわかりにくかったと思う。

4月以降の新制度では、審査を受ける予定の前月末日までに、指定の希望時間を添えて登録申請書等を文化財保護係まで提出する。前月末日までに必着なので、少なくとも25日までは送付しておくのが無難である。後日、東京都教育庁地域教育支援部管理課より、審査会の通知が届く。

なお、基本的には審査物件が1振のみであれば午前、2振以上であれば午後には割り振りされる。指定時間に行けば、30分待機した後、審査を受けられるという仕組みである。

審査会当日の連絡先が、この5月までの通知書に誤って記載されていた。正しくは☎070-6435-5385である。当日はこの電話番号以外連絡ができないので、注意していただきたい。

その他詳細については複雑になるため、後述する。

◆車での来会に要注意

次に②の日程および審査会場についてだが、従来は、毎月第2火曜日、都庁第2庁舎10階だったのが、4月からは原則として第3土曜日（5月と10月のみ第3日曜日）、都庁第2庁舎1階に変更された。これは、一般の方が審査会のためにわざわざ休暇を取らなくても来庁できるようにとの配慮からである。

しかし、一般の方々には確かに親切になったが、筆者のような刀剣商や従来の審査会に慣れた者からすると、必ずしも好都合ではない。審査日前日に物

件を追加でねじ込んだり、混雑具合を予想している時間を狙ったりすることができなくなり、かつ第3土曜日だと、刀剣の勉強会や交換会と重なることも多く、やりづらくなったな…というのが本音である。

去る5月18日(日)、いつものように会社から車で審査会場の都庁に向かった。都庁には第1庁舎と第2庁舎のそれぞれに地下駐車場がある。従来であれば審査会場の第2庁舎10階に、地下駐車場からそのまま向かうことができた。しかし、第2庁舎駐車場は土・日・祝日が休業とあって使えない。

そこで、青梅街道から都庁通りに入り第1庁舎駐車場を目指したが、ここでアクシデント発生。たまたま都庁舎の点検日に当たり、閉鎖されていたのだ。このように駐車場が臨時休業することもあるので、車で行かれる方は前もって都庁公式ホームページで確認しておきたい。

幸いにも同じ都庁通り沿いに新宿NSビル駐車場があったので、そちらに入庫した。料金は庁舎の駐車場と比べると割高だが、近くて便利である。

新たに定められた集合場所、都庁第2庁舎1階北側入り口に向かう。平日であれば1階、2階それぞれ複数ある入り口から入庁できるが、土・日の出入りはこのみである。1階北側入り口は正面玄関ではない。戸惑う方も多いかもしい。

集合場所に着いたら、警備員に登録審査会に来た旨を伝える。しばらくすると誘導職員が来て点呼を取り、開放された入り口から一斉に入庁するという仕組みである。指定集合時間に前後しても、随時入庁することができる。その際は、上記の審査会当日連絡先に電話をする。

◆集合から審査終了まで

ここで受付の時間、順番について例を上げて解説したい（下表参照）。

受付時間および順番の一例

（仮称）グループ	集合指定時間	予指定時間	予指定時間	順番等			
A	9:30	10:00 11:00	集合順	1	3	5	12
			受付時刻	9:00	9:20	9:35	12:05
B	10:30	11:00 12:00	集合順	4	6	7	11
			受付時刻	9:30	10:10	10:30	11:35
C	11:30	12:00 13:00	集合順	2	8	9	10
			受付時刻	9:10	11:20	11:25	11:30
			受付番号	1	2	3	4

仮に、9時から13時の間に12人の審査希望者がいたとして、9時30分集合の10～11時審査のグループをA、10時30分集合の11～12時審査のグループをB、11時30分集合の12～13時審査のグループをCとする。審査テーブルが1、審査希望者1組の処理を15分で終わると仮定する。

集合順というのは実際に入庁した順番、受付時刻というのは入庁した時刻、受付番号というのは実際に指定審査予定時間内での審査を受ける順番である。

例えば、表中の9時10分に入庁した希望者は、12人の中で2番目に入庁したにもかかわらず、審査を受けられる順番は、12～13時審査グループCの中で1番なのである。この場合、自分の審査は12時から始まり、自分より後から来た人の方が早く審査を受けて、既に帰っている、というような状況になる。

また、11時35分に入庁した11番目の希望者は、本来の集合時間は10時30分だが、自分の指定審査予定時間内に入庁できたので、グループBの最後に審査を受けることができる（要事前連絡）。

ほかにも、12時5分に入庁した12番目の希望者は、本来の集合時間は9時30分だが、混雑状況を勘案してグループCの中で審査を受けることができる場合がある（要事前連絡）。

従って、自分の指定審査予定時間に準じた上での先着順ということになる。従来であれば完全に先着順で、至ってシンプルな仕組みだったが、4月からは以上のような受付番号の割り振りとなったため、極端に早く来たり遅く来たりしても、待ち時間を短縮できるわけではないので、ご注意ください。

これはあくまで解説のための1例なので、実際の審査会では、進捗状況によって順番に多少の前後がある可能性が高い。審査テーブルも3～4組あり、1組1振として10～15分をめぐり、1グループ当たり10数組の審査希望者の割り振りで通知が来るとみる（午前中の場合）。

今後の審査会の予定は、7月19日、8月16日、9月20日、10月19日(日)、11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月21日。古式銃砲の登録審査会は奇数月のみ。平成27年4月以後の日程は未定。

なお、文化財保護係の話によれば、来年の2・3月については日時・会場などに変更の可能性があるとのことで、それらの情報も追ってご報告したい。
(大平将広)

古美術商殺人事件

今から4、50年前、殺人事件ともなればマスコミは連日、大変な報道をしていました。近年は、経済の悪化に伴い治安も悪くなり、犯罪が多発しています。凶悪な事件も続々と起き、庶民も犯罪被害と無縁ではられない世情になってきています。

去る5月3日、東京都国立市で古美術店の店主が何者かに背後から刺され、殺害されるという事件が勃発しました。被害者の職業が美術商であり、また営業時間に店舗内で殺害されたと聞くと他人事ではなく、美術業界の誰もが驚くニュースとなりました。

し、犯人逮捕後、凶器として使われたのは、短刀ではなかったとわかりました。

刀剣類が何らかの犯罪に関係して登場すると、その事件の報道の折、刀剣類をことさらに強調する傾向が見られます。このような報道の背景には、しばしば刀剣に対する偏見があるのです。今回の報道に限らず、刀への誤解は社会の中に根深く存在しており、それを取り除かない限り「刀＝凶器」という偏見はなくなるでしょう。

頻繁に起こっている傷害事件の凶器の大多数はナイフや包丁であり、不幸にして刀剣が凶器となってしまう事件は、全体の1%にも満たないはずです。

本当にこれがナイフかと思うような刃物が、何の規制もなく入手できます。通信販売では、脇指と同じ長さで、鍛え肌まで見られる鋭利な刃物が「銃刀法の登録証は要りません」とわざわざ断って販売されています。全くその通りで、これらに登録証は要らないのです。

法律の規制もなく、容易に入手できる刃物で多くの事件が起きている一方、ほとんど凶器として使用されることのない刀剣類だけが銃砲刀剣類所持等取締法の厳しい規制の下に置かれています。

登録されているのは、「美術品として価値のある刀剣類」ですが、それが危害予防を目的とする銃刀法によって縛られているという大なる矛盾があるのです。

どうやら刀剣が銃刀法という法律の対象であるだけで、世間から誤解され、恐れられているのは、否定できないようです。今回の古美術商殺人事件の報道姿勢は、このような背景があるために起きたのだと考えます。また、現状では偏見報道は後を絶たないでしょう。

銃刀法の施行から半世紀以上がたち、社会犯罪も日々変化しています。「日本刀と銃刀法のあり方」について、警察庁や文化庁、関係機関、刀剣関係者などが一堂に集い、真剣に討議する機会が実現することを願っています。(嶋田伸夫)

店先に車荷物運ぶ人物

古美術店主強殺 犯行時間帯に目撃情報



主の田代正 術品店で店
美さん(73)「写真Ⅱが殺害
され、美術品などが奪われ
た強盗殺人事件で、殺害時
間帯とみられる3日午後5
時過ぎ、店の前に止めた車
に荷物を運び込む人物が
目撃されていたことが捜査
関係者への取材で分かつ
た。警視庁はこの人物が事
件に関与したとみて調べて
いる。

東京都国立市で古美術店主の田代正(73)さんが3日午後5時過ぎ、店の前に止めた車に荷物を運び込む人物が目撃されたことが捜査関係者への取材で分かった。警視庁はこの人物が事件に関与したとみて調べている。

捜査関係者によると、3日午後5時56分頃、店先に車が止められているのを複数の通行人が目撃。うち1人が荷物を車に運び込む男とみられる人物を見てい

た。警視庁は、荷物が店から奪われた美術品だったとみている。

また、田代さんが3日昼頃、八王子市の個人宅で短刀などを買い付け、店に持ち帰っていたことも新たに判明したが、店からは、この短刀や田代さんの財布もなくなっていた。現場に凶器はなく、同庁は犯人が短刀で田代さんを刺して持ち去った可能性があるとみている。

田代さんは午後5時頃に妻に電話で、「お客さんがいるので帰れない」と話していた。警視庁はこの客が、荷物を運び出した人物と同一だとみて調べている。

われわれ刀剣商の衝撃はそれだけで終わりませんでした。被害者は当日、個人宅から短刀を購入し、店舗に持ち帰っていたとのこと。その短刀が、店内にあったほかの美術品とともになくなっていたので、テレビや新聞は、短刀が殺害の凶器として使われた可能性があるかと警視庁はみている、と報じたのです。

後日、警視庁に、短刀が凶器となった可能性があるかと会見で発表したのかどうか確認したところ、そのような話はしていないと回答がありました。

日本刀は、その後に来る動詞の表現次第で、現状通りに美術品として扱われたかと思うと、問題のある表現が使われ、凶器としての違法性が疑われかねない事態さえ発生します。

今回の殺人事件では、まだ詳しくわからない時点で、刀剣が凶器として使われたらしいと、一般の誤解を誘導するような報道がなされています。しか

本阿彌光洲氏が人間国宝に 刀剣研磨で5人目、刀剣界で12人目の快挙



文化審議会(宮田亮平会長)は7月18日、重要無形文化財保持者(人間国宝)に刀剣研磨の本阿彌光洲氏(75)＝本名道弘、東京都大田区＝ら7人を認定するよう下村博文文部科学大臣に答申した。政府は九月にも告示する予定。

刀剣界ではかつて「日本刀」や「刀剣研磨」「肥後象嵌・透」が重要無形文化財に指定され、刀匠6、研師4、金工1がそれぞれの保持者に認定されていたが、25年6月、天田昭次氏の逝去により人間国宝は皆無となり、指定も解除されていた。現状を憂い、本紙では挙げて人間国宝の誕生を望むと訴えてきた。今回の認定は、刀剣界全体にとって、誠に喜ばしいニュースである。

本阿彌光洲氏は、昭和14年東京に生まれ、同37年から父本阿彌日洲氏(本名猛夫、人間国宝)に師事し、室町時代より日本刀の研磨等を生業としてきた同家に伝わる伝統的な刀剣研磨の技法を、高度に体得してきた。同氏は、現代の刀匠によって鍛造された刀剣を研磨し、優れた日本刀を世に送り出すとともに、国宝・重要文化財等に指定された数多くの刀剣の研磨を手がけ、有形文化財の保存にも寄与している。

その優れた研磨技術が評価されたことにより、昭和46年に研磨技術等発表会(現「刀剣研磨・外装技術発表会」)無鑑査となった。その後、刀剣に関する豊かな見識を生かし、平成5年以降、同発表会をはじめ、新作刀展覧会(現「新作名刀展」)、お守り刀展覧会、新作日本刀・刀職技術展覧会など、刀剣に関する多くの公募展の審査員を歴任した。

また、同12年以降、美術刀剣研磨技術保存会会長、公益財団法人日本刀文化振興協会理事長などの要職にあって、後進の指導・育成に尽力している。

特別インタビュー 研磨一筋の50余年

■重要無形文化財保持者(人間国宝)認定のマスコミ発表以来、何かとお忙しい本阿彌光洲先生だが、ぜひとも直接にお祝いを申し上げたい。というわけで、本阿彌家とは先代の日洲先生のころから親しくされている伊波常務理事に仲介の労を執っていただき、今号担当委員の服部・持田の両名がインタビューに同行した。

——この度はおめでとうございます。

本阿彌 ありがとうございます。思いがけず認定をいただき、父に続くことができるので、本阿彌家の当主としてほっとしております。

——本阿彌家と言えば、刀とともに歩んできた長い歴史でよく知られています。

本阿彌 本阿彌家は、御刀の研磨・鑑定という仕事に携わって500年間、足利将軍家・織田信長・豊臣秀吉・徳川将軍家に代々仕えてきました。まさに「御刀あつての本阿彌家」と言えましょう。

——なるほど、「御刀あつての本阿彌家」ですか。でも、私たちからは「本阿彌家あつての御刀」とも言え、それにふさわしい働きをなさってこられたからこそ言える言葉ですね。



左から服部暁治氏・本阿彌氏・持田具宏氏



インタビューする伊波賢一氏(左)と本阿彌氏

ところで、日本刀が今まで、何度かの危機を乗り越え、守られてきたのはなぜだと思いますか。
本阿彌 それはやはり将軍家や大名が貴重な働きをされたからでしょう。御刀を大切に思い、鑑定・研磨・保存に大きな責務を果たして下さったと思います。そして明治・大正・昭和と、それらの美風が日本人の趨勢として受け継がれてきたことだと思います。

——入門されたところのお話をお聞かせください。

本阿彌 私は男4人兄弟の3番目ですが、子供のころから手仕事が好きで、私が父の仕事を継ぐことは暗黙の了解でした。高校生のころから仕事場に入り、いろいろやっておりました。父から、仕事について強制されることはありませんでした。この仕事は結局、最後は私がやらなくてはならないと思っていましたから、うるさく言われなかったのかもしれないね。

——父子であり、師弟でもある関係に深い相互の信頼感があったということでしょうね。

だいぶ以前のことになりますが、日洲先生のご活躍がドキュメンタリー番組で放映されたことがありました。確か、光洲先生も登場されていましたね。その中で、日洲先生が昔お研ぎになられた長光に再会され、しばらくじっと鑑賞した後、ささやくように御刀に言葉をかけておられました。とても感動的なシーンでした。

本阿彌 林原美術館を訪ね、国宝の長光に再会したときのことでですね。私もよく覚えています。国宝や希代の名刀を研いだときは、また格別の印象がありますからね。

——光洲先生にとって、特に忘れることのできない

御刀には、どんな名刀がありますでしょうか。

本阿彌 若いころ、父について研いだ御刀、一人前になって任された御刀、先達の研いだ御刀にあらためて取り組んだときなど…思い出はいろいろあります。最近では、国宝の2振があります。1つは則房の太刀で、刀装具美術館から小松コレクションに移ったもの、もう1点は無銘光忠の御刀。これは本阿彌光徳が金象嵌で極めた永青文庫蔵の御刀です。

名刀を研いでいると、次第に御刀の素晴らしさが現れてくる半面、お返ししなければならぬ日も近づいてくる。誠に複雑な心境です。

——人間国宝になられての、現在のお気持ちと抱負をお聞かせください。

本阿彌 50年以上もこの仕事をやっていますから、内容の上では何も変わることはありませんが、皆様のご期待に一層応えていかねばと、身の引き締まる思いがいたします。御刀をお守りしていく以上、後進を育て、自らも精進し、少しでも長く貢献したいと願っています。

——本日はご多用の折、本当にありがとうございます。
 (持田具宏)

本阿彌光洲氏 略歴	
昭和37年	國學院大学文学部史学科卒業
同年	本阿彌日洲師に師事
46年	研磨技術等発表会無鑑査(現在に至る)
平成5年	第46回刀剣研磨・外装技術発表会審査員(以後14回歴任)
6年	新作刀展覧会審査員(以後14回歴任)
12年	美術刀剣研磨技術保存会会長(現在に至る)
20年	東京都指定無形文化財(工芸技術)「日本刀研磨技術」保持者(現在に至る)
21年	一般財団法人日本刀文化振興協会(公益財団法人日本刀文化振興協会)理事(22年まで)
22年	公益財団法人日本刀文化振興協会理事長(現在に至る)
同年	第1回新作日本刀・刀職技術展覧会審査員(以後5回歴任)
同年	国宝 短刀 無銘 正宗(名物包丁正宗)、国宝 短刀 銘 則重(永青文庫所蔵)を研磨
24年	国宝 太刀 銘 則房、国宝 太刀 銘 正恒(ふくやま美術館寄託小松コレクション所蔵)を研磨
25年	国宝 太刀 銘 豊後国行平、国宝 刀 金象嵌銘 光忠(光徳花押)(永青文庫所蔵)を研磨

第27回「大刀剣市」を顧みる



会場の東京美術倶楽部



午前10時の開場を待つたくさんのお客さま

秋たけなわの11月1日(土)~3日(月)、東京新橋の東京美術倶楽部において、第27回「大刀剣市」が開催されました。

第1回の開催は昭和63年にさかのぼりますが、産経新聞社・フジサンケイ ビジネスアイの両社には毎年後援を頂いてきました。今回の出店も北は北海道、南は九州熊本まで74に及び、それぞれがブースの飾り付けに創意工夫をしていました。来場者は、初日雨天にもかかわらず1,190名、2日目は972名、最終日780名を数えました。全国各地からおいでくださったお客さまには、誠に感謝に堪えません。

大刀剣市の開催に当たっては、早くも6月中旬に理事長名で実行委員を委嘱し、実行委員会を立ち上げました。7月中旬からは具体的な作業を開始し、後援の依頼、カタログ掲載商品の集荷、その撮影と返却、ブース割り付け、カタログ編集作業、海外のお客さまへの英文解説作成、ホームページでのお知らせ、また同時開催の重文室展示品の選定と借用お願い、広報としては公益財団法人日本美術刀剣保存協会発行の『刀剣美術』や『産経新聞』『読売新聞』『日刊スポーツ』などへの広告、組合社会貢献パブリシティと続きました。

10月23日には、初めての大刀剣市出店者事前打ち合わせ説明会を開催、各担当者からきめ細かい説明がなされ、併せて出店者・関係者間のコミュニケーションを図ることができました。そして、さまざまな準備をして迎えた大刀剣市初日。朝礼は事前打ち合わせ説明会のおかげで10分足らずで終了、余裕

あるオープンとなりました。

午前10時、最初に受付を済ませたお客さまの団が、まずは4階会場の各店舗に到着、お目当ての商品を探していました。3階会場は少しタイムラグがあったものの、1時間もするとお客さまで賑わっていました。

3階重文室では、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にちなんで、「黒田官兵衛とその時代の刀工達」と題する展覧会を同時開催しました。重文室担当役員の方々の努力で、室町末期の刀剣・刀装具のうち、近年ではまれに見る名品・優品を展示し、多数の来場者に大好評を博しました。

4階では恒例の「我が家のお宝鑑定」が行われ、理事が2人1組で鑑定に当たりました。依頼者は伝家の名品や珍品にまつわる思い出話を花を咲かせた後、鑑定人の評価や所見に一喜一憂していました。

また同じフロアでは、全日本刀匠会所属の刀匠が小品の展示や、銘切りの実演を兼ねて文鎮銘切りの注文を受けるなど、お客さまとのコミュニケーションを図っていました。これからも出店ブースを大いに活用し、来場者に喜ばれるイベントを企画していただくことを希望します。

組合では今年も社会貢献の1つとして、産経新聞社の呼びかける「明美ちゃん基金」(難病に苦しむ子供たちを救う運動)に協賛し、会場にて募金をお願いしました。ご協力いただいたご来場の方々、出店者・組合員の皆さま、浄財をありがとうございました。皆さまの善意30万円は去る12月17日、産経

新聞事業局にお届けしてまいりました。

私たち全国刀剣商業協同組合は、大刀剣市を通じて刀剣に携わる皆さまとともに刀剣の普及啓蒙に貢献し、社会の信頼と地位向上を実現することを目指して邁進してまいります。今後とも、大刀剣市をよろしくお願ひします。

なお、次回の第28回大刀剣市は11月20日(金)～22日(日)、東京美術倶楽部にて開催する予定です。本年も相変わらずのご支援をよろしくお願ひします。

(「大刀剣市」実行委員長・清水儀孝)



休憩コーナーはご覧の通り満席

大刀剣市フォトギャラリー

撮影/トム岸田



「我が家のお宝鑑定」は今年も大盛況



重文室の「黒田官兵衛とその時代の刀工達」展



組合の甲冑コーナーをのぞく



刀匠たちの銘切りに興味津々



海外からの来場者をテレビが取材



抽選会で見事当選したお客さま

さらに充実した「大刀剣市」のために アンケート結果まとまる

■昨年11月1～3日に開催した第27回「大刀剣市」に出店された皆さまに、共同販売の継続的な改善を目的として、12月にアンケート調査を実施しました。一昨年は実施しなかったため、2年ぶりの調査となりました。以下に調査結果をまとめ、ご報告します。

(開催日の希望)

- ・10月下旬～11月上旬……………39%
- ・11月初旬～11月中旬……………21%

(開催場所)

- ・現状……………57%
- ・その他……………6%

(カタログの出来上がり)

- ・満足……………63%
- ・不満足……………3%
- ・どちらとも言えない……………3%

(組合ホームページへの商品掲載)

- ・来年も掲載……………39%
- ・掲載しない……………15%
- ・どちらとも言えない……………18%

(広告媒体について)

- ・良い……………42%
- ・悪い……………0%
- ・現状が良い……………15%

(クレジット分割ローン扱い)

- ・必要……………63%
- ・不必要……………0%
- ・ローンは各店舗で……………6%

(特別展覧会について)

- ・大河ドラマに合わせて良かった……………54%
- ・独自の特別企画が良い……………15%

(お宝鑑定について)

- ・良かった……………42%
- ・悪かった……………6%

(抽選会について)

- ・来年も継続すべき……………42%
- ・やめる……………3%
- ・抽選方法を変える……………3%

(セキュリティについて)

- ・満足……………48%
- ・どちらとも言えない……………6%

(事前説明会について)

- ・大変わかりやすかった……………48%
- ・普通……………15%
- ・わかりづらい……………0%

(今年大刀剣市は成功したか)

- ・成功……………42%
- ・どちらとも言えない……………18%

(昨年と比べて景気の実感はいかがですか)

- ・良かった……………18%
- ・変わらない……………24%
- ・悪い……………24%

〈お客さまの声〉

○高齢者のために、もう少し休息所を広くできませんか。

○抽選会を楽しみにしています。

○お宝鑑定にて、鑑定員の対応が不満だったと、開催中申し出を受けました。

改善発展につながるように、アンケート調査では別紙を同時に配布し、広くご意見とご要望をいただきましたが、次のような内容も寄せられています。要約してご紹介します。

○大刀剣市を、時には地方都市にて開催希望。

○照明器具の一律LEDへの変更を。

○会場が2つに分かれない、平等性のある場所へ改める。

○特別展覧会は独自の企画で行ってもよい。

○カタログ掲載のページ数を限定せず、希望者には増してもよいのでは。

○メディア等に取材、紹介してもらえるような企画の追加。

○広告媒体への予算比率の見直し、また新たなメディアへ追加と変更。

○乗降客の多い駅近くに会場を移し、広告媒体の活用により一般客を増やす。

○海外からのお客さまは、11月中旬ごろの開催を希望。

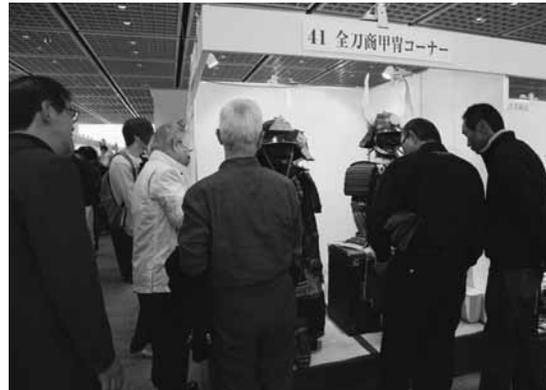
○抽選会において、DMの回収によって得た情報が活かされていないので、抽選方法を見直す。

○各店の陳列方法に変化と進化を求め、マンネリ化を打開する。

今回のアンケート調査は、74店舗中、22の出展者

の方より回答をいただきました。3分の1に届かない、残念な回答率となっています。

昨年初めて行われた出展者事前説明会は、多くの



ますます賑わいを見せる大刀剣市だが…

方が既に認識している内容が多いにもかかわらず、なぜ開かれたのでしょうか。それは、組合が外部に発信する唯一の一大イベントですので、出展者全員がさらに参加意識を高めていただき、申し込みは誰でも出展できるという安易な認識から脱却するための第一歩であったのではないかと思います。

回答率を見ただけでも、出展者の方々の意識の向上を仰がなければなりません。大刀剣市には、今後も経済状況や来場者のニーズの変化に対応しながら、進化が求められるものと思います。皆さまの建設的なご意見をさらにお聞きしたいと実行委員会は考えております。

この度は年末のお忙しい中、アンケート調査にご回答をくださり、誠にありがとうございました。

(嶋田伸夫)

「刀剣博物館」両国公会堂跡地へ新築移転 墨田区が日刀保を事業候補者に決定、開館は4年後

公益財団法人日本美術刀剣保存協会（渋谷区代々木4-25-10 ☎03-3379-1386）では、昭和43年に開館した刀剣博物館の老朽化に対処するため、現在地での建て替えや他への移転について種々検討を重ねてきたが、このほど、旧安田庭園内の両国公会堂（墨田区横綱1-12-10）跡地に新築し、移転することが決まった。

旧安田庭園は、常陸国笠間藩主本庄因幡守宗資が元禄年間（1688～1703）に築造したと伝えられる。隅田川の水を引く潮入回遊式庭園として整備され、明治維新後は旧備前岡山藩主池田章政の邸となり、次いで安田財閥創立者・安田善次郎（1838～1921）の所有となった。大正11年（1922）東京市に寄付され、戦後に東京都から墨田区に移管された。当庭園はJR両国駅からも近く、入園は無料で公開され、四季折々の変化が多く都民に親しまれている。

安田の寄付は日比谷公会堂や東大安田講堂が知られるが、両国公会堂も没後の大正15年、その遺志により東京都への寄付として建設費が賄われた。設計者は東京駅舎を手がけた辰野金吾に学び、台湾で多くの官庁建築に携わった森山松之助。円形のドーム屋根の公会堂は、地域のランドマーク的存在として、また大正から昭和初期にかけての歴史的遺構として関係者に保存が望まれていた。

公会堂を管理する墨田区では、建物の老朽化によ



老朽化と耐震性が懸念される現在の刀剣博物館

り平成13年4月から休館し、この間、施設を再生利用する民間事業者を公募してきたが、決定に至らなかった。そこで区は、施設を現状のままにしておくことは、安全面や地域活性化の観点から問題があるとし、施設を解体し、民間事業者を主体に「文化観光機能を念頭に置いた魅力ある公園施設を新たに設置する」こととした。

このような中、日刀保から刀剣博物館を移転設置する提案があり、選定委員会の審査等を経て、日刀保が両国公会堂跡地の活用事業候補者に決定した。

日刀保の提案によると、「観光まち歩き拠点」や「両国地区の景観づくり」に寄与するとともに、1階フロアを誰もが自由に出入りできる場所とし、地域情

報コーナーやカフェを設置するなど、地域貢献も積極的に果たしていくとしている。今後、墨田区と日

刀保は事業の具体化に向けた協議を進め、来年度には建物の解体に着工、4年後の新刀剣博物館開館を目指す。

東京スカイツリーの開業以来何かと話題の多い墨田区だが、郵政博物館に続いて、たばこと塩の博物館、すみだ北斎美術館の開館も相次いで予定されている。東京オリンピック・パラリンピックの開催前に、両国国技館・江戸東京博物館に隣接して刀剣博物館がオープンすると、日本刀があらためて世界から注目されることが確実視される。期待して見守りたい。



旧安田庭園内の両国公会堂跡地に新刀剣博物館は建設される

待たれる新刀剣博物館のオープン 業界の問題解決に向けて日刀保と協議

平成24年4月に公益財団法人として新たなスタートを切った日本美術刀剣保存協会（小野裕会長。以下、日刀保）は、「和」の精神の下に公益目的事業の推進と刀剣文化のさらなる普及のため、積極的に関係機関、業界各団体との連携を深めています。

設立から67年、絶えず変革が求められ、戦後の日本再生とともに歩んできた日刀保ですが、現在、刀剣博物館の移転という最大の事業に臨んでいます。

そのように慌ただしい最中にもかかわらず、当組合との会談の機会を2月27日に持ついただきました。日刀保より小野会長・柴原勤専務理事・福本富雄常務理事が出席され、組合からは深海理事長・飯田前理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事と筆者が出席しました。

初めに小野会長より、移転に関する進行状況が報告されました。前回の会合では、移転に関する財務収支はかなりの寄付金を要するとのことでしたが、今回の報告では当初の設計を変更することなく、日



新刀剣博物館（左上）と旧安田庭園の模型
（設計／横総合計画事務所）

刀保の基本財産等で移転が行えるよう、予算案を大きく見直したということでした。

今後、寄付金を広く受けてはいますが、前回の内容ほどの移転費用の収支差がなくなりました。こ

の案件は組合としても無縁ではなく、大変心配していただけない、まずは安堵しました。

新刀剣博物館の施工には既に戸田建設が選定されており、平成28年3月に着工し、29年春に完成する予定だそうです。現在は埋蔵文化財の調査が進められており、間もなく終了するとの報告もいただきました。開館については詳しく言及されませんでした。建物の完成後おそらく1年を要するのではないかと推測します。

新刀剣博物館は隅田川沿いに位置するため、河川が氾濫した場合の水害対策について伺いましたところ、江戸時代より隅田川の水を引く潮入回遊庭園となっており（現在は地下貯水槽よりポンプを使用）、もし園内に隅田川の水が流入してきても、園外へ自然に排水できるような構造になっているようです。

江戸時代、本庄氏によって大名庭園に築造され、明治に入り安田財閥が維持してきた名園を、今後は刀剣博物館を訪れる世界の人々が楽しめることは、大変喜ばしい限りです。

墨田区より借地するため、日刀保が地代を支払いながらの運営となりますが、一方、3階建ての1階部分は、墨田区民の憩いの広場として有意義に活用されるために、地代はその分考慮される金額と伺いました。

新刀剣博物館は地域情報コーナーやカフェなど、地域交流の場としての機能に加え、国際文化交流の場としても大きく貢献し、近隣の美術館・博物館などとも提携することで、新たな多くの来館者で賑わうことになりそうです。

刀剣業界の問題解決のために

日刀保の主要業務である刀剣審査の受付物件数ここ数年大幅に増加傾向にあり、業務量が増えるとともに、物件返却までに従来より時日を要しています。機関誌『刀剣美術』本年2月号でも、返却の遅れにご理解をいただきたいと、お詫びが記載されています。

組合から日刀保に対し、あらためて審査終了後の返却までの期間短縮を要請しました。

日刀保からは、3名の新しい職員を採用し、学芸員は休みを返上して対応している現状にあり、改善するまで今しばらく待っていただきたいとの回答がありました。

刀剣類の審査には、受付から鑑定書発行まで多く

の業務があり、その作業を正確にこなしつつ、いかに時間を短縮できるかが、大きな課題です。組合として、その時間というキーワードに何か協力できないかと提案をいたしました。

続いて、刀剣類の名義変更に伴う問題について協議しました。

刀剣入手後、銃砲刀剣類所持等取締法により名義変更が義務づけられているものの、従来、刀剣所有者の方々にはあまり重要視される傾向にはありませんでした。当組合は警察庁認可の団体でもあり、警察行政に協力するために、組合員・愛刀家の方たちへここ数年、さまざまな機会を捉え名義変更の重要性を訴えてきました。

その結果、東京都の場合、かつて4,000振程度であった名義変更申請が、ここ数年は6,000振以上と飛躍的に増えました。おそらく他の道府県でも同じ傾向が見られることでしょう。

しかし、登録証を交付している教育委員会の誤記のために、まま善意の申請者に不都合が生じています。

新たに所有した旨を届け出ると、寸法違いや銘の脱字など、台帳と相違するとの理由で名義変更ができないばかりか、銃刀法違反の犯罪者になりかねないと、交付した教育委員会から指摘される現状です。公安委員会まで巻き込み、事件性がないにもかかわらず多くの時間を費やし、その後新規登録として扱われることもあります。

このような問題を何の対処もせず放置しておけば、業界にとって登録制度は負の遺産となりかねません。

しかし、過去の登録証記載ミス問題を、当組合だけで折衝しようとしても解決はきわめて困難です。そこで今後、行政側に問題解決の窓口を設けてもらえるように働きかけるため、日刀保にも協力をいただきたいとお願いしました。小野会長からは、そのような問題は、愛刀家の方々が安心して刀剣類を所持するには必要不可欠なことであり、今後大いに協力していきたいとの回答をいただきました。

今回の日刀保との会合は、多くの業界の声を聞き、新刀剣博物館にその声を生かしていこうとする、現執行部の方々の意気込みを伺う有意義な機会となりました。

刀剣業界発展のための、また未来へ伝統文化を継承していくにふさわしい、新刀剣博物館の開館が待ち遠しい限りです。（嶋田伸夫）

第28回通常総会

議 事

風薫る5月17日(日)、晴天の良き日に、東京美術倶楽部において全国刀剣商業協同組合は第28回通常総会を開催した。交換会開催も相まって、朝早くから全国各地より多数の組合員が参集された。

午前10時、司会担当の松本義行氏より総会出席状況の報告があり、組合員総数176名中出席60名、委任状提出34名、合計94名と過半数に達したため、総会は成立することが告げられた。

続いて猿田副理事長が開会の辞を述べ、次いで深海理事長よりご挨拶があった。次に司会者が議長選出に入ったところで、会場より「司会者一任」との声がかかり、司会者が深海理事長を指名した。直ちに議案の審議に入った。

今年度は第8号議案が役員改選なので、これを後に回し、第1号議案から第9号議案の審議に入った。議案は次の通り。

第1号議案

平成26度事業報告承認の件（清水専務理事）

平成26度会計報告承認の件（伊波常務理事）

（会計監査／笠原・佐藤両監事）

第2号議案

平成26度事業計画案決定の件（清水専務理事）

第3号議案

平成26度収支予算案決定の件（伊波常務理事）

第4号議案

役員報酬の件（服部常務理事）

第5号議案

経費の賦課および徴収に関する件（服部常務理事）

第6号議案

平成26度借入金残高の最高限度額に関する件（服部常務）

第7号議案

1組合員に対する貸し付け、又は1組合員の為にする債務保証の残高の最高限度に関する件（服部常務理事）

第9号議案

全国美術連合会加入の件（伊波常務理事）

理事役員70歳定年の件（深海理事長）

なお第2号議案（共同販売事業）大刀剣市日程に際して質問がなされた。深海理事長より今後情報を把握して日程調整するとの答弁がなされた。上記議案はすべて承認可決された。

その後、8号議案（役員改選）に入り、議長を冥賀副理事長に代わり選挙の説明がなされた。続いて投票に移り、その結果は町田選挙管理委員長から発表された。

その後、第1回理事会が開催され、選挙によって満場一致で深海信彦氏が理事長に再任された。平成27年度役員は25ページに掲載の通り。

最後に冥賀副理事長から閉会の辞が述べられ、第28回通常総会は滞りなく終了した。（清水儀孝）



第28回通常総会の会場風景

平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

I 事業活動の概況に関する事項

平成26年度の組合活動は、交換会事業において前年度から引き続きの不払い事故が今年度までも続いており、景気回復と言われている昨今に反する非常に厳しい環境下にあります。「交換会」においては例年より若干の下降線の推移となりながらも組合員のご協力により「大刀剣市」は、ほぼ昨年同様の業績を上げる事ができました。機関紙「刀剣界」も第22号の発行を数えるなど購読者、業界外に対しても浸透しつつ啓蒙活動にも取り組んでいるところであります。

II 運営組織の状況に関する事項

1. 組合員数及び出資口数（出資1口20,000円）

	前年度末 現在		期間中移動				本年度末 現在		
	組合員数	出資口数	組合員数	出資口数	増資口数	組合員数	出資口数		
計	183	1882	2	15	0	9	34	176	1863

賛助会員82名

2. 直前3事業年度の財産および損益の状況

(当該事業年度は含まない)

	平成26年3月 27期	平成25年3月 26期	平成24年3月 25期
項目	前期	前前期	前前前期
資産合計	86,983,555	106,170,574	131,062,351
純資産合計	77,026,229	77,692,954	73,705,301
事業収益合計	54,811,110	62,970,638	81,493,652
当期純利益金額	▲576,726	5,757,653	14,697,111

3. 組合組織

(1)役員：理事17名、監事2名

(2)役職：理事長1名、副理事長3名、専務理事1名、常務理事2名

(3)相談役(3名)：朝倉万幸、福永昭二、柴田和夫
参与(2名)：齋藤雅稔、伊波徳男

(4)事務局：職員2名

(5)組織：①経済委員会、②金融委員会、③総務委員会

(6)関連団体：全国中小企業団体中央会

4. 会議開催概要

第28回通常総会

平成26年5月17日 於東京美術倶楽部

出席54名、委任状75名

第1号議案：平成25年度事業報告承認の件、承認
平成25年度会計報告承認の件、承認
監査報告、承認

第2号議案：平成26年度事業計画案決定の件、可決

第3号議案：平成26年度収支予算案決定の件、可決

第4号議案：役員報酬の件、可決

第5号議案：経費の賦課および徴収に関する件、可決

第6号議案：平成26年度借入金残高の最高限度に関する件、可決

第7号議案：1組合員に対する貸付け、または1組合員の為にする債務保証の残高の最高限度に関する件、可決

第8号議案：その他、承認

理事会

第1回 平成26年4月17日

出席15名

第1号議案：第27回通常総会に向けて

第2号議案：組合新規入会申し込み者承認の件、承認

第3号議案：その他

第2回 平成26年6月17日

出席13名

第1号議案：大刀剣市について

第2号議案：その他

委員会

金融委員会6回、経済委員会12回、教育情報部会『刀剣界』編集委員会24回

4. 慶弔事項

*弔事

組合員：高橋歳夫（令夫人様）
賛助会員：宗正敏（ご尊父様）

*慶事

本阿彌 光洲

（重要無形文化財保持者に認定される）

III 事業別概要

1. 経済委員会の事業活動

①市場運営事業

交換会が12回開催されました。出来高は下記の通りです。

	会場	日時	出来高(円)	出席数
第1回	東京美術倶楽部	平成26年4月17日	13,992,500	56
第2回	〃	5月17日	15,994,200	73
第3回	〃	6月17日	13,468,150	61
第4回	〃	7月17日	13,318,500	53
第5回	〃	8月23日	11,811,500	48
第6回	〃	9月17日	19,724,750	50
第7回	〃	10月23日	23,087,500	73
第8回	〃	11月17日	14,262,700	54
第9回	〃	12月17日	11,308,000	48
第10回	〃	平成27年1月17日	16,475,000	53
第11回	〃	2月17日	6,291,000	52
第12回	〃	3月17日	9,929,500	49
計			169,663,300	670

②共同販売促進事業（大刀剣市）

組合事業大イベントに定着した「大刀剣市」は、11月1日～3日の3日間、産経新聞社フジ・サンケイビジネスアイの後援により例年通り東京美術倶楽部に於いて、74店舗の参加により開催されました。恒例の「お宝鑑定」、日本美術刀剣保存協会・日本刀文化振興協会の協力により職方との提携をしつつ「現代刀匠による銘切り実演」特別企画としては「黒田官兵衛とその時代の刀工達」展の催しが「大刀剣市」を大いに盛り上げました。

又、毎年同様に「カタログ」を作成し、商品販売の為だけでなく「大刀剣市」の記録誌としての価値も加わり、残す事が目的でもあります。

(円)

事業収入	30,321,720	
総事業支出		24,157,499
事業利益		6,164,221
合計	30,321,720	30,321,720

③共同購買事業

「やさしいかたな」		販売中
「美術刀剣所有者変更届書」		販売中
書籍 日本刀の教科書	在庫26冊	販売中
骨董 緑青	在庫45冊	販売中
肥前刀備忘録	在庫11冊	販売中
佐野美術館図録（戦国武将の装い）	在庫27冊	販売中
〃（備前一文字）	在庫3冊	販売中
越前守助広大鑑	在庫29冊	販売中
神津伯押形	在庫19冊	販売中
座忘鐔撰	在庫16冊	販売中
現代刀名作図鑑	在庫19冊	販売中
甲冑武具重要文化資料	在庫4冊	販売中

大名家秘蔵の名刀展	在庫53冊	販売中
伝統美と匠の世界	在庫23冊	販売中
伝承の技と匠の世界	在庫55冊	販売中
日本刀の悠久の美を見つめて	在庫20冊	販売中
名刀と日本人	在庫264冊	販売中
DVD 百錬精鐵（月山貞利）	在庫8本	販売中

2. 金融委員会の事業活動

昨年同様、組合員各位、交換会の立替金として商工中金からの借入をこれに充当している。

3. 総務委員会の事業活動

①共同宣伝事業

イ、「大刀剣市」ならびに併催イベント

ロ、「大刀剣市」およびイベントに関しての記事掲載：産経新聞社・読売新聞社・フジサンケイ ビジネスアイ・刀剣美術 他 新聞各紙（日刊スポーツ、報知新聞、夕刊フジ、東京スポーツ）

ハ、その他関係機関、団体に季節広告等

② その他

イ、「大刀剣市」開催時における「明美ちゃん基金」への寄付を募る

ロ、組合員の慶弔庶務事項の処理

ハ、理事会、組合規約、事業計画案等の文書作成

平成27年度事業計画

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

本年度は、組合員の増加ならびに各委員会の内容充実を主題とし、より一層の組合員結束強化と、経済情勢を睨みながら各委員会の活動拡大、関係諸団体との連携を深め、組合ならびに組合員の社会的・経済的地位の向上を図る。

1. 経済委員会の事業活動

①市場運営事業

本年も、昨年と同様に通常交換会方式を遂行し、開催日も毎月17日と決めました。

(1)開催 12回

(2)会場 東京美術倶楽部

(3)方法 交換会規約に基づく

(4)取引高 各回1,300万円

(5)手数料 4%

(6)経費 一開催45万円

②共同販売事業（「大刀剣市」とイベント）

昨年同様、東京美術倶楽部にて11月20日(金)・21日(土)・22日(日)の3日間に「大刀剣市」の開催を予定しております。

「お宝鑑定」につきましても、例年の通りに予定しております。

③共同購買事業

書籍、手入道具等、付帯用品の共同購買を継続します。

2. 金融委員会の事業活動

既実施された融資を継続して行います。

特定金融機関 → 組合員
(組合保証)

3. 総務委員会の事業活動

①教育情報事業

・『刀剣界』新聞発行

②共同宣伝事業

・「大刀剣市」とイベント時の新聞・業界紙・インターネットへの広告発信

・産経新聞・フジサンケイ ビジネスアイ・読売新聞・他新聞・刀剣美術への刀剣類関係の記事掲載

・カタログ作成配布

・業界他団体との共同事業計画（刀匠会・保存協会・刀文協）

・他関係機関、団体への季節広告

③古物営業法に伴う諸作業

④その他

・盗難品触れの配布、関係団体との折衝、通知資料の配布

平成27年度収支予算（案）

（収入の部）

科目	金額	備考
市場運営営業収入 交換会受取手数料	¥7,440,000	通常交換会 ¥6,240,000 (13,000,000×4%×12回) 会費収入 ¥1,200,000
共同販売事業	¥25,000,000	大刀剣市収入金
賦課金収入	¥2,560,000	組合員(180人×¥12,000) 賛助会員(83人×¥5,000)
事業外収入	¥5,200,000	受取利息、雑収入、その他の事業収入
合計	¥40,200,000	

（支出の部）

科目	金額	備考
事業費	¥28,900,000	
市場運営 共同販売事業費	¥4,800,000 ¥22,000,000	運営費、会場費、利息、他 大刀剣市開催費用 全国紙広告代、雑費他
教育情報費 事業運営費	¥2,000,000 ¥100,000	組合新聞発行(刀剣界・全刀商誌) 総会、他の事業費
一般管理費	¥11,300,000	
職員給料手当	¥6,000,000	職員給与与・人件費等
事務消耗品	¥865,000	リース・カウンター・FAX料・事務消耗用品
通信費	¥900,000	NET・TEL・携帯・宅配・メール便・電報等
旅費交通費	¥580,000	定期代・査定交通費・品物他運搬用駐車場費
会議費	¥20,000	理事会、委員会他
交際費	¥100,000	渉外関係
水道光熱費	¥145,000	光熱費(ガス・水道・電気)
諸会費	¥300,000	関係団体
支払手数料	¥800,000	顧問料(経理士・司法書士)
福利厚生費	¥250,000	社会保険料・労働保険料
広告宣伝費	¥255,000	組合ホームページ
慶弔費	¥40,000	慶弔費
管理費	¥575,000	スカイプラザ(組合)・アルソック警備保障
雑費	¥20,000	諸雑費
租税公課	¥450,000	諸税金・印紙
合計	¥40,200,000	¥40,200,000

4. 役員報酬の件

役員は無報酬とする。

5. 経費の賦課および徴収に関する件

本組合の平成27年度12カ月分の賦課金は次の方法により徴収する。

①定額一律賦課徴収

現金または振込一括納入 1,000円×12カ月=12,000円
賛助会員 = 5,000円

②消費税の取扱い

賦課金は、課税対象外として取り扱うから、課税仕入れにならない。

6. 平成27年度借入金残高の最高限度の件

組合事業振興資金に充てるため金融機関からの借入金残高の最高限度額を2億円と定める。

7. 1組合員に対する貸付け、または1組合員のためにする債務保証の残高の最高限度に関する件

1組合員に対する貸付け、または1組合員のためにする債務保証の残高の最高限度を3,000万円と定める。

平成27年度役員・委員会構成

役員	
理事長	深海信彦
副理事長	猿田慎男・冥賀吉也
専務理事	清水儀孝
常務理事	伊波賢一・服部晧治
理事	赤荻 稔・飯田慶久・佐藤 均・嶋田伸夫・生野 正・瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・松本義行 持田具宏・吉井唯夫
監事	大平岳子・木村義治

委員会

各委員会代表 深海信彦（理事長） (〇印は部会長)

1 経済委員会

委員長	猿田慎男
副委員長	赤荻 稔・瀬下 明

① 市場運営部会

赤荻 稔・木村義治・佐藤 均・猿田慎男・瀬下 明・土肥豊久・松本義行

買高担当 〇清水儀孝・綱取譲一・服部晧治

② 共同宣伝部及び共同販売促進部会「大刀剣市」

〇冥賀吉也・赤荻 稔・飯田慶久・伊波賢一・大平岳子・木村義治・佐藤 均・猿田慎男・嶋田伸夫
清水儀孝・生野 正・瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・服部晧治・松本義行・持田具宏・吉井唯夫

③ 評価鑑定部会「大刀剣市」

赤荻 稔・飯田慶久・伊波賢一・木村義治・佐藤 均・猿田慎男・嶋田伸夫・清水儀孝・生野 正
瀬下 明・綱取譲一・土肥豊久・服部晧治・深海信彦・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・吉井唯夫

2 金融委員会

委員長	服部晧治
副委員長	嶋田伸夫・綱取譲一・松本義行

① 共同購買部会「書籍等」

〇嶋田伸夫・生野 正・服部晧治・冥賀吉也

3 総務委員会

委員長	冥賀吉也
副委員長	清水儀孝・服部晧治

委員 赤荻 稔・大平岳子・伊波賢一・佐藤 均・嶋田伸夫・生野 正・瀬下 明・松本義行・持田具宏
吉井唯夫

① 調査研究部会（インターネット関連含む）

〇嶋田伸夫・佐藤 均・生野 正・青年部

② 教育情報部会（「刀剣界」及び「全刀商」誌編集 編集長 土子民夫）

赤荻 稔・飯田慶久・伊波賢一・佐藤 均・猿田慎男・嶋田伸夫・清水儀孝・生野 正・瀬下 明
綱取譲一・土肥豊久・服部晧治・深海信彦・松本義行・冥賀吉也・持田具宏・吉井唯夫

③ 防犯対策部会

〇伊波賢一・飯田慶久・猿田慎男・深海信彦

④ 福利厚生部会

〇吉井唯夫・大平岳子・持田具宏

4 青年部

飯田慶雄・大平将広・大西芳生・新堀 徹・新堀賀将・高橋正法・土肥富康・服部一隆・冥賀亮典
藤田佑介

平成26年度組合活動の記録

(平成26年4月1日～27年3月31日)

- 4月7日 全国美術商連合会に伊波常務理事が出席(東京美術倶楽部)
- 16日 東京美術倶楽部にて笠原監事・佐藤監事が平成25年度会計監査を実施
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加56名、出来高13,992,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、理事15名、監事2名
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第17号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田慶雄氏・大西芳生氏・大平将広氏・松本義行氏・土子民夫氏
- 5月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第17号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・松本氏・土子氏
- 7日 銀座長州屋にて『刀剣界』第17号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・服部常務理事・生野理事・綱取理事・土子氏
- 12日 土肥富康氏(栴和敬堂)・苫野敬史氏(明倫産業(株))が入会(4月17日の理事会にて承認)
- 17日 東京美術倶楽部にて第27回通常総会を開催。出席74名
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加73名、出来高15,994,200円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大平氏・新堀賀将氏・松本氏・土子氏
- 17日 長弘道氏・榊勝弘氏(逝去)が退会(総会にて承認)
- 6月12日 『全刀商』第23号編集委員会を開催(校正)。
- 出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・大西氏・新堀氏・土肥富康氏・松本氏・土子氏
- 13日 深海理事長・清水専務理事・服部常務理事が警察庁生活安全課を訪問、武田課長・井係長・原田課員と面談
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加73名、出来高13,468,150円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・新堀氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 24日 銀座長州屋にて『全刀商』第23号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・生野理事・綱取理事・土子氏
- 7月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・新堀氏・土肥氏・土子氏
- 7日 銀座長州屋にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・服部常務理事・生野理事・綱取理事・土子氏
- 14日 清水専務理事・服部常務理事が産経新聞社を訪問し、「大刀剣市」の後援を依頼
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高13,068,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」カタログ掲載商品の第1回集荷受付
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第18号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊

- 波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大西氏・大平氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 18日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第1回撮影。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 24日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」カタログ掲載商品の第2回集荷受付
- 25日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第2回撮影。担当者、持田理事・松本氏
- 8月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて「大刀剣市」カタログ掲載商品の第3回集荷受付
- 4日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第3回撮影。担当者、高橋正法氏・服部一隆氏
- 5日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ掲載作品第4回撮影。担当者、生野理事・瀬下昌彦氏
- 8日 真津仁彰氏(御刀研處真澄庵)が賛助会員に入会
- 8日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・持田理事・土子氏
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加48名、出来高11,811,500円
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第19号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大西氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 28日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催(初校)。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・大平氏・齋藤隆久氏・冥賀亮典氏・土子氏
- 9月2日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催(再校)。出席者、清水専務理事・服部常務理事・生野理事・綱取理事・持田理事・高橋氏・土子氏
- 5日 組合事務所にて清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事が「大刀剣市」広告の件で産経新聞社と打ち合わせ
- 8日 組合事務所にて伊波常務理事が「大刀剣市」広告の件でアオバ企画と打ち合わせ
- 12日 同美印刷にて「大刀剣市」カタログの最終校正。出席者、清水専務理事・服部常務理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加50名、出来高19,724,750円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・田澤数馬氏・土肥氏・土子氏
- 29日 「大刀剣市」カタログ入荷
- 10月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて「大刀剣市」出店者顔合わせ説明会開催について打ち合わせ。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事
- 1日 銀座刀剣倶楽部会場にて「大刀剣市」英文解説の校正。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・土子氏
- 14日 新宿警察署古物商講習会に事務局より参加
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加73名、出来高23,087,500円
- 23日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」出店者顔合わせ説明会を開催
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・松本氏・土子氏
- 30日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・

- 飯田氏・大平氏・服部一隆氏・松本氏・土子氏
- 11月1日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」を開催。
～3日 来場者数1日1,190名、2日972名、3日780名、計2,942名。「明美ちゃん基金」に153,743円集まる
- 5日 銀座長州屋にて『刀剣界』第20号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・生野理事・綱取理事・持田理事・服部一隆氏・松本氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加54名、出来高14,262,700円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第21号編集委員会を開催(企画)。参加者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・飯田氏・大西氏・大平氏・新堀氏・松本氏・土子氏
- 29日 ホテルオークラ東京にて本阿彌光洲氏重要無形文化財保持者認定祝賀会が開催され、組合より深海理事長ほか多数が出席
- 12月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第21号編集委員会を開催(小澤正晴氏インタビュー)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大平氏・松本氏・土子氏
- 4日 冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事が東京都教育庁を訪問、小森勉文化財保護担当官と会談
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加48名、出来高11,308,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第21号編集委員会を開催(校正)。参加者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・嶋田理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・新堀氏・土肥富康氏・松本氏・土子氏
- 17日 清水専務理事・赤荻理事・持田理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に30万円を寄付
- 1月8日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第21号編集委員会(校正)を開催。出席者、深
- 海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・飯田氏・大西氏・大平氏・土肥氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高16,475,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第22号編集委員会(企画)を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・大西氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 2月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高6,291,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第22号編集委員会(校正)を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・土肥氏・松本氏・土子氏
- 27日 刀剣博物館の移転などに関し、日本美術刀剣保存協会の小野会長らと深海理事長ほか情報交換を行う
- 3月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて『刀剣界』第22号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・持田理事・飯田氏・大平氏・松本氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高9,532,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第23号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・持田理事・大西氏・大平氏・土肥氏・松本氏・土子氏

大刀剣市 2015

本年も東京美術倶楽部において
「大刀剣市」を開催いたします。

期日：11月20日(金)

21日(土)

22日(日)

全国刀剣商業協同組合

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302

TEL03(3205)0601 FAX03(3205)0089